

救急医療におけるハプトグロビン測定の有用性について

～ Quick Turbdによる迅速測定より～

久保田 芽里, 石田 浩美, 小島 義忠, 福田 篤久
(大阪府立泉州救命救急センター 検査室)

【はじめに】ハプトグロビン (Hp) は、CRPなどと同様の Acute Phase Proteinであるが、ヘモグロビン (Hb) と強く結合する性質を持ち、血管内溶血によって生じた有害な Free Hbを除去する働きを有する。一方、救命センターに搬送される重症熱傷患者は、血管内溶血によって受傷直後からHb尿を呈することが多く、Hpの測定は血管内溶血の診断や腎障害の予防に役立つのではないかと考えた。【目的】今回、救急医療におけるHp測定の有用性についてQuick Turbo(シノテスト)を用いて検討した。

【対象および方法】対象は、2004年3月から6月までに当センターに救急搬送された熱傷患者とした。方法は、Quick Turboの基礎的検討(操作性・迅速性・直線性・同時再現性など)および、熱傷患者血清を用いてHpの経時的变化を中心に検討した。【結果】Quick Turbdは、試薬の加温時間や一部操作の改良を望むものの、測定値に関しては、ほぼ満足な結果が得られた。重症熱傷患者におけるHp測定では、血管内溶血、Hp製剤の補充・溶血やHb尿の消失などにもないHp値の変動が観察された。

【考察】Quick TurbdによるHp測定は加温時間が30分と長いですが、その他はおおむね迅速性・簡便性ともに良好であり、POC機器としても使用可能と思われた。今回の症例では、来院時より血管内溶血を認め、Hpは低値でありHb尿も認めた。そこでHp製剤を投与したところ、Hp値はピークとなり、以後血管内溶血およびHb尿は経時的に消失した。このように受傷後早期に十分量のHp製剤を投与することは、Hb尿の消失や溶血にともなう腎障害の軽減や予防につながる。したがってHpの測定は、Hpの枯渇や補充時の確認のため必要と思われた。【まとめ】救急医療におけるHp測定の有用性について、Quick Turboを用いて検討した。その結果、本機種によるHpの測定は、迅速性・簡便性・再現性に優れており、熱傷症例における動態は臨床状態をよく反映していると思われた。

連絡先：0724-64-9911(内線 9939)